

政策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 政策の基本情報

| | | | | | | | | | | |
|---------------|-------|-----|--|---------|-------------|--------------------------|-----------|-------|-------------|------|
| 総合計画 中期プラン | 政策No. | 3-2 | 政策名 | 学校教育の充実 | 政策の 目指す姿 | 夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています | 政策 主管課 | 学校教育課 | 政策主管 課長名 | 中村 哲 |
| | 政策の方針 | | 花巻の次世代を担う児童・生徒が、夢と希望を持ちたくましく育つためには、学校教育の充実を図る必要があります。そのために、児童生徒の学力や体力の向上を図るとともに、郷土を愛し、自己肯定感や思いやりのある豊かな人間性を育みます。また、すべての子どもが毎日いきいきと学校生活を送ることができるように特別な支援を要する子どもへの支援体制の充実を図るほか、適正で安全な教育環境の整備と家庭や地域との連携を推進します。 | | | | | | | |

2 成果指標の達成状況

| 成果指標名 | 成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか) | 成果指標の測定企画 (どのように実績を把握する のか) | 単位 | 区分 | H27 (基準年度) | H29 | H30 | R1 | R5 |
|-----------------------|---|-----------------------------------|----|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|----|
| 夢と希望を持って生活している児童生徒の割合 | グローバル化など変動する社会の中で、自立した社会人として生きていく力を育むことは極めて重要なことであり、子どもたちに将来の夢や希望を持ちながら生活する意欲や活力を育むことがその根底として大切にされなければならない。 | 出典：岩手県学習定着度状況調査 | % | 目標値 | 小88.0 中75.0 | 小88.5 中76.0 | 小88.5 中77.0 | 小90.0 中80.0 | |
| | | | | 実績値 | 小87.0 中73.0 | 小87.0 中76.0 | 小89.0 中71.0 | - | |
| 達成度 | [達成状況に関する背景・要因] | | | | | | | | |
| C | 校種別には、小学校が目標値に達しているが、中学校において実績値が減少している状況である。生徒への確かな学力の保障が十分でないこと、不登校児童生徒の増加など、課題が存在している。その要因として、教職員を取り巻く多忙化の環境から、本来業務である授業を中心とした指導の時間の確保に困難があること、児童生徒の家庭環境の複雑化・多様化が課題の根底として考えられる。 | | | | | | | | |

3 政策に対する各施策の達成度

| No. | 施策名 | 成果指標名 | H27 (基準年度) | H29 | | | H30 | | | R1 | | 前年実績 との比較 | 達成度 |
|-----|-----------|----------------------------------|-----------------|------------------|------------------|-----|------------------|------------------|-----|------------------|-----|--------------|-----|
| | | | 現状値 | 目標値 | 実績値 | 達成度 | 目標値 | 実績値 | 達成度 | 目標値 | 見込み | | |
| 1 | 学力・体力の向上 | 教科学習における基礎基本の定着度(%) | 小100.9 中98.0 | 小105.0 中102.0 | 小100.0 中101.0 | b | 小105.0 中103.0 | 小100.2 中97.2 | b | 小105.0 中104.0 | | → | C |
| | | 児童生徒の「体力・運動能力調査」の全国平均を上回る項目割合(%) | 小46.9 中75.0 | 小50.0 中79.2 | 小40.6 中66.7 | c | 小52.1 中79.2 | 小42.7 中68.8 | c | 小54.2 中79.2 | | ↘ | |
| 2 | 豊かな人間性の育成 | 自己肯定感を持った児童生徒の割合(%) | 小78.0 中67.5 | 小80.0 中70.0 | 小79.0 中76.0 | b | 小80.0 中70.0 | 小78.0 中74.0 | b | 小80.0 中70.0 | | → | B |
| | | 親切・思いやりを持った児童生徒の割合(%) | 小94.0 中94.0 | 小95.0 中95.0 | 小98.0 中96.0 | a | 小96.0 中96.0 | 小96.0 中96.0 | a | 小97.0 中97.0 | | → | |
| 3 | 特別支援体制の充実 | 不登校児童生徒の出現率(%) | 小0.20 中1.89 | 小0.26 中1.92 | 小0.25 中2.08 | b | 小0.22 中1.84 | 小0.35 中3.06 | c | 小0.18 中1.76 | | ↘ | C |
| | | 個別的教育支援計画作成の割合(%) | 小36.8 中27.3 | 小60.0 中50.0 | 小100.0 中100.0 | a | 小80.0 中75.0 | 小100.0 中100.0 | a | 小100.0 中100.0 | | → | |
| 4 | 教育環境の充実 | 地域との協働による教育活動に取り組んでいる学校の割合(%) | 小94.4 中81.9 | 小94.7 中81.8 | 小89.5 中90.9 | b | 小94.7 中90.9 | 小89.5 中90.9 | b | 小100 中100 | | → | B |

4 政策の総合的な評価

| 評価区分 | 政策の課題と要因 |
|----------------|--|
| C-③ やや遅れている | 総合的に見て、概ね順調に推移しているが、児童・生徒が夢と希望を持ち、たくましく育つためには、学校教育の充実を図る必要がある。施策1で達成度が低かった要因としては、基本的な学習習慣の定着を目指した家庭学習時間が全国・県平均より少ないこと、また、テレビ視聴やゲーム、インターネット使用の時間が全国・県平均よりも多いことなどから、家庭学習以外にも運動経験・遊びの体験につながっていないことが考えられる。不登校児童生徒の出現率増加により、政策3の達成度を低い状況と判断したのは、児童生徒の置かれている状況を多面的に把握し、個々のケースに対応していく必要がある。 |

| | | | | | |
|---------|---|--------------|---|---|---|
| 成果指標達成度 | A | | | | |
| | B | | | | |
| | C | ☆ | | | |
| | D | | | | |
| | | ④ | ③ | ② | ① |
| | | 政策に対する施策の達成度 | | | |

5 政策を構成する施策一覧

| 施策名 | 学力・体力の向上 | 施策の成果指標の達成状況 | H29 | C | H30 | C |
|-----|--|--------------|-----|---|-----|---|
| 1 | <p>施策名 学力・体力の向上</p> <p>施策の成果指標の達成状況</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における学力向上は継続した課題であり、学校によっては、県平均を大幅に下回る場合もあり、家庭学習の取り組みなど、各小・中学校の組織的な取り組みを今後とも支援する必要がある。 ・学校の体力向上に向けての取り組み、特に小学校における基礎体力の向上を促す工夫が必要である。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度には、県学習定着度状況調査において県平均正答率に到達することを目指し、下記の取組(①、②)を行う。 ①各校の組織的な取り組みを支援し、県平均を下回った学校を中心に支援するため、指導主事や学力向上支援員による計画的・意図的な訪問指導の回数を増やしていく。 ②中学校での課題である数学・英語の学力向上推進のため、英語検定受験の補助を今後も継続するとともに、小学校における基礎学力向上のため、漢字検定受験の補助を実施する。 ・運動に親しみ、体力向上につなげるために、体力向上実践事業を活用し、小学校3校を事業実践校として指定することで各学校の取組を推進する。 | | | | | |
| 2 | <p>施策名 豊かな人間性の育成</p> <p>施策の成果指標の達成状況</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習支援事業(復興教育、ボランティア活動、地域体験など)では、体験的な学習の充実により、自己肯定感や思いやりを持った児童生徒が育成されているが、各学校での活動を今後も継続支援していくことが肝要である。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校において適切な事業実施、積極的な事業活用を図り、体験的な学習の推進を支援するため、効果的な学習・工夫した体験を実施している学校について資料を用いて市内各学校に紹介するなど、事業の充実と内容の充実を図っていく。 | | H29 | B | H30 | B |
| 3 | <p>施策名 特別支援体制の充実</p> <p>施策の成果指標の達成状況</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校出現率の増加は、児童生徒の置かれている状況を多面的に理解し、複雑化しているケース等に対応する必要がある。生徒支援員や教育相談員の資質向上と連携を一層強化していく。 ・「個別の教育支援計画」の作成割合は100%を堅持できた。 ・特別支援教育へのニーズが高まっていることから、ふれあい共育推進員の配置を含め、各校の体制充実を図る必要がある。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・不適応児童生徒の未然防止、早期対応に資するため、市教委(指導主事、教育相談員、生徒支援員等)と特にも学校が連携して組織的に対応できるよう、市教委の学校訪問指導の機会を増やす。 ・「個別の教育支援計画」作成について、各校の取組を支援するため、周知徹底する研修・伝達の機会を設定する。 ・特別な支援が必要な児童生徒に対応するため、巡回教育相談や判定検査の充実を図りながら、ふれあい共育推進員の適切な学校配置を継続していく。 | | H29 | B | H30 | C |
| 4 | <p>施策名 教育環境の充実</p> <p>施策の成果指標の達成状況</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金事業の周知が十分ではないことから、周知方法の工夫が必要。 ・コミュニティー・スクールを見据えた学校経営の充実を図るため、各校が積極的に地域の教育力を活用できるように支援が必要。 ・中学校区単位での9年間を見通した小中連携や学校図書館の充実といった多面的な支援が必要。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金事業については、市内の中学校、高等学校や大学に対し、チラシ配布や学校訪問による周知依頼を実施するとともに、市の広報・Webページ、FMはなまきを活用して、各家庭へ周知する。 ・家庭・地域との連携による学校経営を推進するため、コミュニティー・スクール研究指定校を指定し、地域との協働による学校経営の充実を支援する。 ・小中連携教育実践校を指定し、9年間を見通した教育の充実を支援する。 | | H29 | B | H30 | B |